

地域連携室 “あざれあ” 便り 第 100 号

夏休みも終わりに近づいてきました。立秋を過ぎたとはいえ、暑い日が続いています。

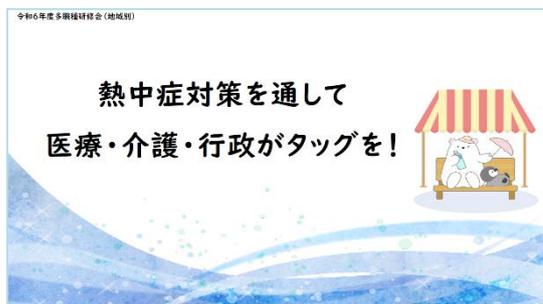
今月は、4カ月にわたり地域の熱中症対策について意見交換を重ねた研修会についてご報告します。



8月

令和6年度多職種研修会 「熱中症対策を通して医療・介護・行政がタッグを！」

今年度は、5月から8月まで熱中症対策について考える研修会を継続的に開催した。まず5月の研修会では、熱中症対策としてのクーリングシェルター等について先駆的に取り組んでいる東京都墨田区の事例から学びを深めた。6月からは、東広島市を3地域に分けて、専門職が墨田区の事例を参考として地域の熱中症対策について意見交換した。



【意見交換まとめ】



- 1) 熱中症特別警戒情報等の連絡体制について…市民ポータルサイトや緊急告知ラジオなど既存のシステムを有効活用することで、効率的に地域住民に情報発信並びに注意喚起を図る。
- 2) 高齢者等熱中症弱者の把握・リスク評価について…情報整理のための「情報収集標準様式」を作成して「要注意レベル者」の情報を多職種で共有すると共に、民生児童委員や配食サービス事業者、家族などとも連携を強化して情報把握につとめる。
- 3) 熱中症予防についての情報発信について…作業部会において簡潔でインパクトのあるチラシを作成し、普及啓発する。また個別訪問の際には疾患なども考慮した上で、個別に助言する。
- 4) 熱中症普及啓発団体の面的連携について…地域包括支援センターや介護保険サービス事業所等が連携し、高齢者等の相談に応じる。また、医科・歯科・薬局をはじめ商工会や教育機関、民生児童委員、見守りサポーター、消防団など様々な機関と連携することで、多面的に熱中症予防について普及啓発する。
- 5) 自ら熱中症予防行動が困難な高齢者等への支援について…消防団や「熱中症予防啓発隊（仮称）」などの巡回を検討する。また夏場は通所サービスやショートステイを増やすなど、介護保険サービスの利用調整について検討する。
- 6) クーリングシェルター（涼み所）について…市役所、支所、地域センター、医療機関、薬局などはもちろんのこと、「こども110番」のように協力機関を募る。また涼み所の一覧表を作成して周知を図ると共に、目印となる旗（のぼり）や、経口補水液・塩あめなどの備品を整備する。
- 7) その他…熱中症予防週間やスローガンを設けることで、注意喚起を図る。高齢者等リスクの高い人については、温湿度計などを配布して注意喚起する。

※これら意見交換の内容を整理し、行政に提言することとする。

